

阪神・淡路大震災関西対策委員会へ ご意見をお寄せください

1995年1月17日、阪神・淡路地区を中心に多くの人々が、未曾有の大震災に見舞われました。地元並びに遠隔地から多数の図書館員が、被災地に駆け付け図書館復興のために大変なご尽力をいただきました。

日本図書館協会（以下日図協と略）としても、早々に栗原理事長が現地の見舞いに出発するなど、現地と精力的に接触を重ねました。その結果として、4月17日に大阪公共図書館協会（OLA）の協力を得て、「阪神・淡路大震災関西対策委員会」を発足させ、三苫正勝・日図協理事を委員長に、伊藤峻・OLA会長（豊中市立岡町図書館長）を副委員長に定め、活動をはじめました。

この委員会の役割はさまざまな課題に対応して、企画・調整の役割を果たしてゆくことであり、この間にも、「お見舞金の配布方法」「図書館関連団体の支援状況の把握」「被災地の地域資料の収集」「被災図書館の現状の調査」「被災図書館の写真の収集」「被災図書館の記録」等の課題に取り組んでまいりました。

しかしながら、まだ不十分な面が

あることも否めません。そこで、当委員会としてはこの際、委員会の存在を広く図書館界に知っていただく対策委員会では各図書館に震災資料保存について下記をお願いを送りました。

と同時に、多くの方々からご意見を寄せていただくことを願うことにしました。

連絡先：阪神・淡路大震災関西対策委員会事務局 服部裕太（吹田市立中央図書館 ☎06-387-0071）

1995年6月15日

図書館各位 殿

日本図書館協会
阪神・淡路大震災関西対策委員会
委員長 三苫正勝

阪神・淡路大震災に伴う資料保存等について（御願い）

阪神・淡路地域を襲った未曾有の大震災から、5ヶ月が経過しようとしています。まだ震災の深い傷痕が色濃く残るなかで、多くの図書館員がそれぞれの図書館職場で、日々努力していることに思いを馳せるにつけ万感の思いを禁じえません。一刻も早く、そして以前にもまして図書館が活気を取り戻すことを願っております。

さて、日本図書館協会といたしましても、今回の大震災にあたり大阪公共図書館協会と協力しつつ、いくつかの支援を行ってまいりました。そうした中でも、今回のような災害で被災前・被災中の資料が阪神・淡路地区から散逸してしまうことに強い懸念をいただいております。

すでに各図書館におかれましては、もとより図書館の使命として、各種資料の収集保存に努めておられることと存じますが、なお、重ねて下記のようなことに御留意いただきたく、お願い申し上げます。

記

- 一、各府県立図書館並びに各市町村立図書館における従来の収集保存範囲を拡大強化して、被災前・被災中の地域資料等の収集保存に努めることについて。
- 二、上記の地域資料等の目録等の作成にあたっては、各関連機関と協力して、目録等を作成するよう調整を行うことについて。
- 三、図書館で上記のことが十分に実施できない地域においては、上記の地域資料等の収集保存を各府県立図書館が協力することについて。
- 四、収集保存された地域資料等について、他日、総合目録の作成に協力・着手することについて。

以上